

実験・実習費に関する調査について

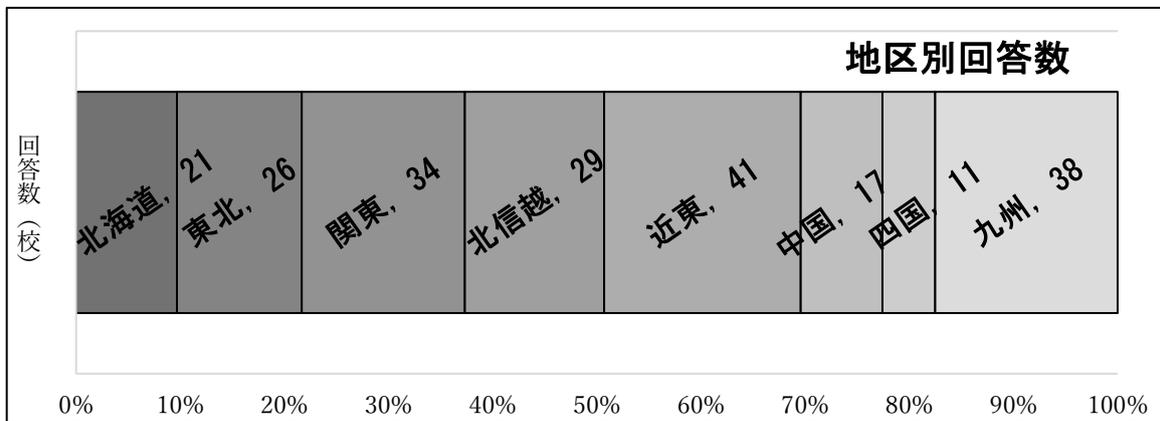
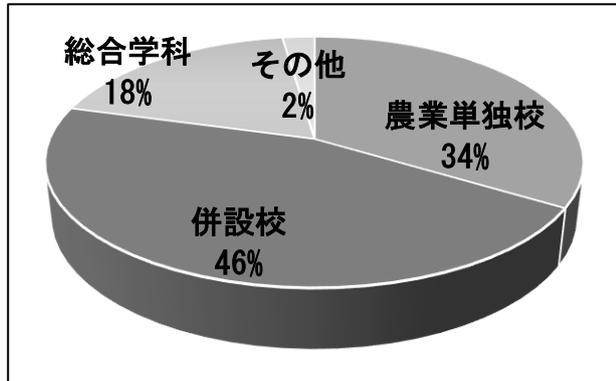
全国高等学校農場協会振興局

1 アンケート協力校について

回答総数 217 校 (昨年比△13 校)
(対象: 375 校 回答率 57.9%)

【回答校種別】

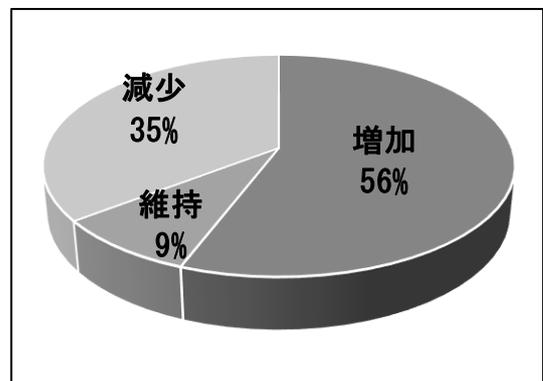
- ・農業単独校 73 校 (昨年比△3 校)
- ・併設校 99 校 (昨年比△7 校)
- ・総合学科 40 校 (昨年比△8 校)
- ・その他 5 校 (昨年比▼5 校)



2 収入を伴う実験・実習費について (令和3年度から令和5年度への変化)

- (1) 令和3年度の収入を伴う実験・実習費の金額 平均 2,934,203 円
- (2) 令和5年度の収入を伴う実験・実習費の金額 平均 2,899,569 円
- (3) 令和3年度から令和5年度の変化 34,635 円減額 (約 1.2%減)
- (4) 収入を伴う実験実習費の増減割合 (調査対象 172 校)

回答	校数	割合 (%)
増額	96	56%
維持	15	9%
減額	61	35%



◎都道府県別状況: 増額 24、減額 13

◎5%以上減額があった都道府県

- 静岡県 (▼57.6%)、埼玉県 (▼22.9%)
- 兵庫県 (▼13.0%)、広島県 (▼9.8%)
- 山梨県 (▼9.0%)、福井県 (▼9.8%)

(複数校から回答があった都道府県のみ対象)

(5) 収入を伴う実験実習費についての意見・要望（要約）

ア 物価上昇と予算増額の要望

「物価上昇に伴い実験・実習費も増額してほしい」との要望が多く、特に農業資材や燃料の価格高騰が農場運営に大きく影響していることが強調されている。

イ 施設設備の老朽化

「施設設備の老朽化が問題になっている」との指摘があり、農場の維持管理や安全な生徒実習のためには、施設・設備・機械の修繕及び定期的な更新が必要とされている。

ウ 収入と支出のバランス

「支出に対する収入の割合を考えてほしい」との意見があり、予算執行に苦労している現状が述べられている。効果的な農場運営が成り立たない状況が今後も続いていくことが懸念されている。

エ 職員数の不足

「教諭・助手ともに職員数が不足している」との指摘があり、充実した農業教育や農場の維持・運営を行うためには職員の増員が必要であるとされている。

オ 異常気象の影響

「異常気象により農作物不良から農場収入の減少がみられ」との懸念があり、猛暑や自然災害により今後の農場運営の安定性が脅かされる可能性が示唆されている。

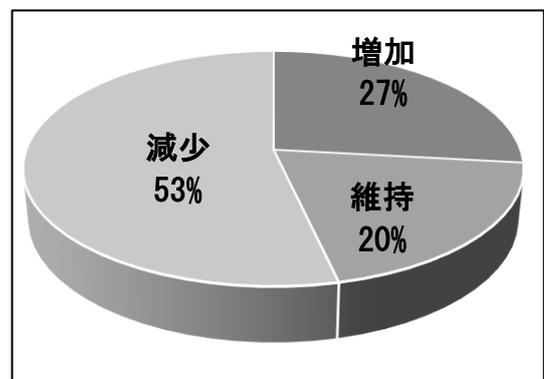
カ 全体の要約として、回答校の多くは、物価上昇や施設の老朽化、職員不足、異常気象などの複合的な問題に直面しており、これらの課題を解決し農業教育を充実した環境にするためには予算の増額・執行方法の改善が必要であると強く求めている。

3 収入を伴わない実験・実習費について（令和3年度から令和5年度への変化）

○農業単独校

- (1) 令和3年度の収入を伴わない実験・実習費の金額 平均 1,331,896 円
- (2) 令和5年度の収入を伴わない実験・実習費の金額 平均 1,445,829 円
- (3) 令和3年度から令和5年度の変化 113,933 円増額（約 7.9%増）
- (4) 収入を伴わない実験実習費の増減割合（調査対象 56 校）

回答	校数	割合 (%)
増 額	15	27%
維 持	11	20%
減 額	30	54%



◎ 5%以上減額があった都道府県

- 兵庫県（▼41.2%）、静岡県（▼21.8%）
- 山形県（▼14.6%）、福岡県（▼13.2%）
- 新潟県（▼11.4%）、岩手県（▼ 9.2%）
- 秋田県（▼ 8.6%）

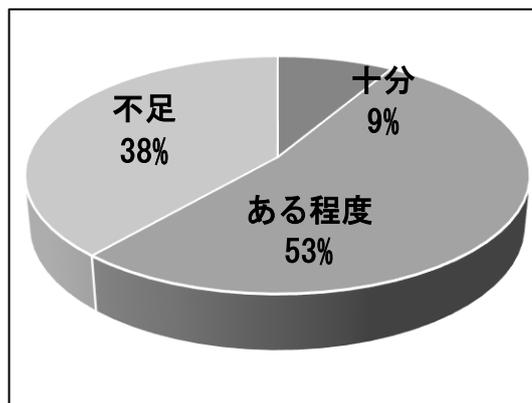
（複数校から回答があった都道府県のみ対象）

(5) 「現在の予算で、現状のカリキュラムを維持できますか。」

回答	校数	割合 (%)
十分できる	6	9%
ある程度できる	37	53%
足りなくて困っている	27	38%

◎昨年比

十分できる	3%→9% (△)
ある程度できる	55%→53% (▼)
足りなくて困っている	42%→38% (▼)

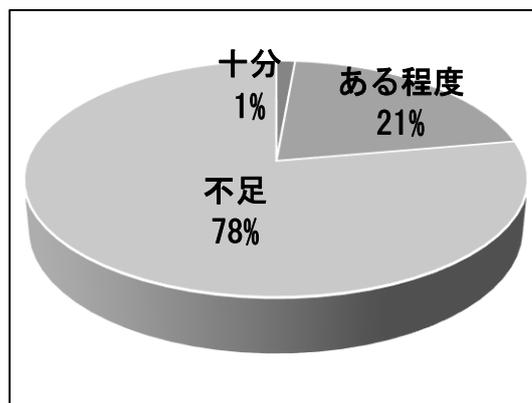


(6) 「スマート農業等の先進的農業教育を推進するための予算は確保されていますか。」

回答	校数	割合 (%)
十分にあり	1	1%
ある程度あり	15	21%
足りなくて困っている	56	78%

◎昨年比

十分にあり	1%→1% (ー)
ある程度あり	26%→21% (▼)
足りなくて困っている	73%→78% (▼)



(7) 収入を伴わない実験実習費についての意見・要望（農業単独校要約）

ア 予算の優先順位と将来の不安

「農業単独校のため優先的に予算を確保できているが、将来、学校の統廃合で単独校ではなくなった場合は大幅に減額すると考えられる。」少子化の影響による将来的な統廃合、農場規模の縮小に対する不安を示している。

イ 実験・実習費の不足

「充実した専門学習を行うにあたって現状での予算は低すぎる。」多くの学科が全体的な予算不足に悩んでおり、特に実験・実習費が不足していることが強調されている。

ウ 物価高騰の影響

「物価高騰のあおりを受け、予算が不足している学科が多い。」経済状況など外部要因が校内予算に与える影響を示しており、社会の変化に応じた増額が必要であることが求められている。

エ 施設・設備の老朽化

「施設、設備の老朽化も相まって、大きく進展できず、現在の農業の現状を踏まえてもこれからの農業の未来について考えることが難しい。」老朽化した設備が教育の質に影響を与えていること、農業の将来性・発展性への不安が指摘されている。

オ 予算の減額とその影響

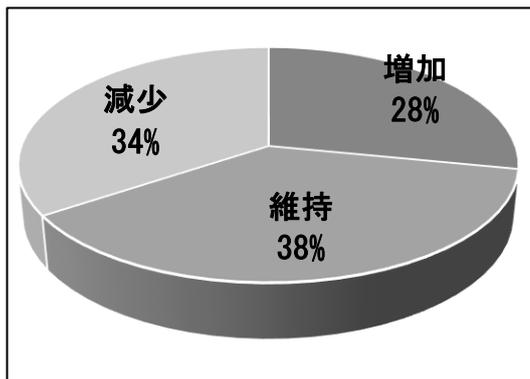
「今年度は〇%カットでスタートしている。」予算の減額が教育活動に与える影響が深刻であり、特に収入を伴わない学科にとっては厳しい状況であることが述べられている。

カ 全体として、農業単独校では予算が不足しているという回答が多く、特に実験・実習費の予算規模や施設の老朽化が学習活動に悪影響を及ぼしていることが強調されている。増額の必要性が強く求められている。

○併設校・総合学科・その他

- (1) 令和3年度の収入を伴わない実験・実習費の金額 平均 10,703,670 円
 (2) 令和5年度の収入を伴わない実験・実習費の金額 平均 11,331,013 円
 (3) 令和3年度から令和5年度の変化 627,343 円増額 (約 5.5%増)
 (4) 収入を伴わない実験実習費の増減割合 (調査対象 96 校)

回答	校数	割合 (%)
増 額	27	28%
維 持	36	38%
減 額	33	34%



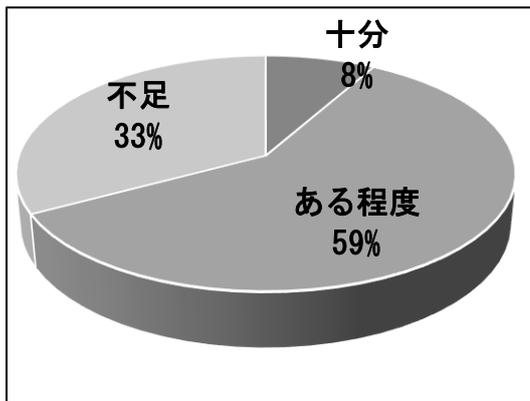
◎ 5%以上減額があった都道府県

香川県 (▼28.6%)、愛知県 (▼21.0%)
 千葉県 (▼15.3%)、福岡県 (▼14.5%)
 新潟県 (▼13.9%)

(複数校から回答があった都道府県のみ対象)

- (5) 「現在の予算で、現状のカリキュラムを維持できますか。」

回答	校数	割合 (%)
十分できる	11	8%
ある程度できる	79	59%
足りなくて困っている	44	33%

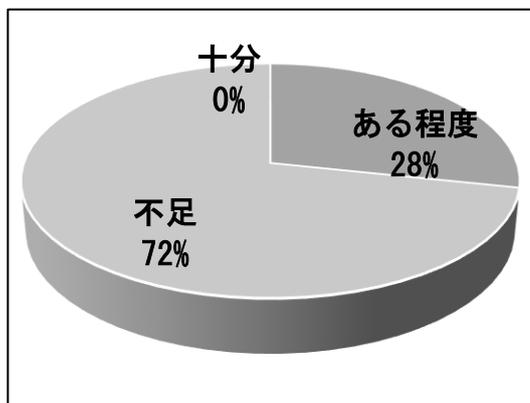


◎ 昨年比

十分できる 8% → 8% (—)
 ある程度できる 56% → 59% (△)
 足りなくて困っている 36% → 33% (▼)

- (6) 「スマート農業等の先進的農業教育を推進するための予算は確保されていますか。」

回答	校数	割合 (%)
十分に あり	0	0%
ある程度 あり	38	28%
足りなくて困っている	96	72%



◎ 昨年比

十分にあり 2% → 0% (▼)
 ある程度あり 30% → 26% (▼)
 足りなくて困っている 68% → 72% (△)

(7) 収入を伴わない実験実習費についての意見・要望（併設、総合学科、その他校要約）

ア 予算の減少と必要性

「実験・実習費は毎年減少している。スマート農業等の先進的農業教育を推進するためには、別に予算が必要である。」教育活動に必要な資材費が高騰しており、予算の増額が強く求められている。

イ 収入を伴わない実習の課題

「収入を伴わない実験実習費については令達されていると思うが普通科や他系列の予算と合算されており、把握できていないのが現状です。」収入がない実習に対する予算が不透明で、分けて管理することが望まれている。

ウ 資材高騰の影響

「資材等（マルチ・支柱・肥料・農薬・薬品ほか）や原材料（小麦・調味料ほか）費等が高騰し、教育活動に支障を来すケースが生じている。」教育内容を維持するためには、予算の増額が必要である。

エ 施設設備の老朽化と安全性

「施設が老朽化し安全面が不安である。予算の確保をして欲しい。」教育環境の安全性を確保するための予算が求められている。

オ 新しい学習指導要領への対応

「現状の教育内容と、その内容で指導するための予算の乖離がとても大きい。」スマート農業やプログラミングに関する新しい学習内容を実施するための予算が不足している。

カ 全体として、農業教育における実験・実習費の減少、資材高騰、施設の老朽化、そして新しい教育内容への対応に対する予算の増額が強く求められていることが示されている。

4 考察・まとめ

収入を伴う実験・実習費については、増額された校数が56%と増額の傾向を示したが、平均額は約1.2%の減額となっている。意見・要望から察するに、生産規模拡大が要因とは考えにくく、物価上昇に応じた農場維持費用が影響していると考えられ、物価上昇や施設老朽化、職員不足、異常気象などの複合的な問題に悩んでいる様子が伺える。

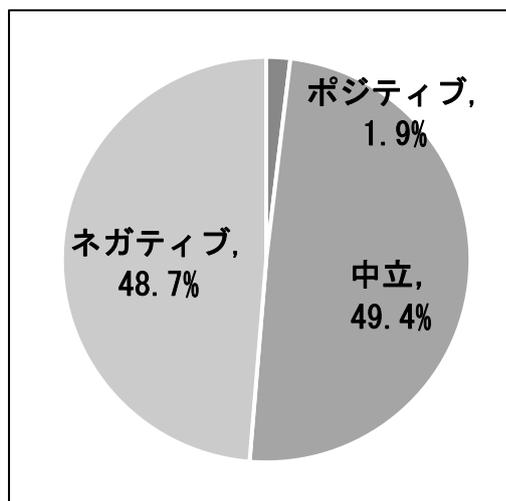
収入を伴わない実験・実習費では、農業単独校で7.9%、併設校・総合学科・その他校で5.5%の微増が見られるものの、単独校では減額された校数が多く、地域ごとに差異が見られた。意見・要望では、少子化による学級減や、当初予算から削減を示される状況も見られ、収入のない学科では物価上昇も影響し、十分な実験・実習が展開できないという意見も多い。他学科・他系列と合算されており予算額が把握できない、老朽化による教育環境の安全性確保が予算用途に影響を与えているという意見もある。更新されない施設・設備の利用により、産業の現状に見合う教育の質を担保できないという意見も見られた。

「現在の予算でカリキュラムを維持できるか。」及び「スマート農業等の先進的農業教育を推進するための予算は確保されているか。」についての調査では、現行のカリキュラムを維持するための予算は何とか確保できているものの、スマート農業などの先進的農業教育に充てる予算は7割以上が不足を感じていることがわかる。現状の予算では、社会の変化に合わせた農業教育の実現が難しいことを示している。

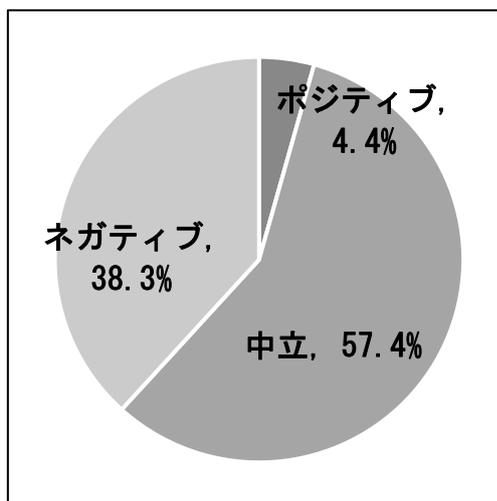
今回の調査では、会員校から寄せられた意見・要望を「AI テキストマイニング by ユーザーローカル」を活用して分析した。意見・要望に対する感情分析では、すべての調査で肯定的な意見が少なく、ネガティブな傾向が多く見られ、昨年度調査と同様に農場運営や実験・実習に苦慮している学校の実情が明らかとなっている。

これら諸問題に改善が見られなければ、農場の維持、教育の質の保証、全体の士気にもかかわる大きな課題であり、円滑に農業教育を展開するためにも実験・実習に関する予算措置の改善、増額をここに強く要望する。

【参考資料】「AI テキストマイニング by ユーザーローカル」による分析



収入を伴う実験・実習費
についての意見・要望（感情）



収入を伴わない実験・実習費
についての意見・要望（感情）

最後に、お忙しい中、貴重なお時間をいただきアンケートにご協力いただきました各農場代表の皆様に御礼申し上げます。昨年度と同様の設問で行いましたが、回答された学校の状況にも変化があり、一部、昨年度との比較・検証には至りませんでした。

次年度以降も、実験・実習費の増額に向けて全国からより多くのご意見を頂けるように設問を改善してまいりますので、今後ともご協力をお願いいたします。